

# 木知原の今昔!

43号: 24・7・12



樽見鉄道陸橋辺りに天狗党が渡った渡船場があった(1681年開業)

**天** 狗党とは、元治元年(1864)に水戸藩(茨城県)で蜂起した尊王攘夷派の集団である。  
(天狗党の名は“成り上がり者が鼻高々になっている”と言う蔑称)

■ 天狗党は京を目指し中山道を南下する予定であったが、木知原の領主(西尾曾根城主)や西美濃の大名が関ヶ原通過を拒んだため急きょ木知原村を通り北上することになった。

村は突然に降って湧いたような大事件に大騒ぎとなったのである。

☞ 天狗党の風評は志とは大きく異なり

- 📌 天狗党は、血気盛んで戦いに慣れた武士が多い。その上に10数門の大砲と多くの鉄砲を備え持った800名近い戦闘集団である
- 📌 岐阜に着くまでに2度の戦いを乗り切っている。



武田耕雲齋

と知れば誰もが“恐ろしい集団”と思うのも当然である。

☞ その天狗党が天和元年(1864)12月1日(新暦12月30日)に長瀬村で一泊して翌2日に

**上岩崎の渡船場**を渡って**木知原**を通るとなったから驚きと恐怖で大混乱に陥ったことは想像できる。



天狗党：美濃～越前経路

**木知原村**では

- ❖ 妻や子供は早々と実家に帰した。
- ❖ 牛馬は取られることを恐れて山中に隠した。
- ❖ 年寄りや近所の炭焼き小屋などに隠れさせた
- ❖ 残った男衆は竹やりを持って物陰から見守った

ところが

■ 一団は何ら危害を加えること無く木知原・川内村を經由して日当村で宿泊した。

- ☞ 日当村では支払われた多額の宿泊料でアケミノに**新田を開拓**している。
- ☞ 外山郷から天狗党の志に賛同して一団に加わった人(3名)がいる。大久保利通等、前触れの様には“恐ろしい集団”ではなかったのである。
- ❖ その天狗党が敦賀で**悲惨な最期**をとげたことはご承知の通り。



日記に、このむごい行為は幕府が近く滅亡する事を自ら示したものである。と記していた。

それにしても

- ♥ これ程の集団がどの様にして渡船場を渡ったのか想像できない。
- ♥ 公民館辺りの旧道で大砲や銃を持った800人もの大軍が進む様はなかなか画けない。
- ♥ 天地がひっくり返る程の大事件! しかもそれほど昔の出来事でもないのに…
  - ・歴史教科書には余り載っていないし村人も後世に語り伝えていない???
  - ・この点について各書籍とも“推して知るべし”的な表記にとどめている。
- ♥ きっと幕府は権威維持・維新立役者(大久保・西郷・木戸)は改革の障害とならないようにと厳しい**かん口令**が敷かれていたのではないかと推測するが…貴殿は?

■ 参考:敦賀では353名が斬首・約470名が遠島・水戸渡し・寺預け・江戸送りとなった。

- ❖ 首は塩漬けで水戸へ送りさらし後は捨てられた。また水戸の家族もすべて捕えられている。
- ❖ 大久保の日記もわかるような気がする。その僅か4年後に幕府が幕をひいているから。

? 江戸城無血開城の楽屋裏は複雑で村人は何も分からなかったと思う。これが武家社会であった。